

(一五) 自己を充分に發表出来る子供に

- 1、個人的に保母を多く語る機会を造つてやること(全部の者が一日に一度は必ず保母と話をすること)。
- 2、他人を通していろいろの話させず、自ら進んで話を持ち出す様誘導すること。
- 3、保育中でも始終發表出来るやうな折を造つておいてやること。
- 4、幼兒の質問に對して親切に答へてやること。

躰の研究に添へる側面的所感

倉 橋 惣 三

- 5、お話、唱歌、遊戯、製作品等一人つゝ發表する機会を造つてやること。

(一六) 審美感のある子供に

- 1、保育室を清楚に整理整頓しておくこと。
- 2、お話、紙芝居等の材料に特に注意すること。
- 3、保母の趣味を高尙に且つ常に豊かならしめること。
(服装等あまりかけはなれた様子をせぬこと)

躰といふさいかめしい様だが、心理的にいふと、つまり、いゝ習慣を形の上に又心の方向へつけてゆくことである。

習慣だから一定の事を繰返さねばならぬ。一定の事といふには、先生が一定の事をさせるさいふ事と共に一定の環境が與へられることもある。例へばその部屋に入ればその部屋らしい環境が一定してゐなければならぬ。丁度我々の家に一定のきまりがある様に。

環境の中でも先生がみんなかさいふことは一番大切であらう。先生はさういふ方針でさいふ様に方法を用ゐる時の外に、一つの環境である。

環境について、少し言ひ過ぎる様な問題の取扱ひかもしれませんが、環境としての先生は、その先生が何をするさいふよりも、そのあり様、あり方がその子供に、大きく影響する。そこで、そのあり様が大切なのです。人間には種々

の風がある。長所短所さいふ價值の話ではないが、その人の流儀、その人の性質、その人のたががあつて、それがその位影響してゐるかさいふ事が環境なのである。

例へば非常に短氣の人がゐるさするさ、それは環境として子供に影響するでせう。その人は別に氣もつかずそれがその人のあたり前さしてゐるかもしれぬ。又その反對に伸氣な人はそれが子供に及ぼすでせう。これは道德上、良いさか悪いさか言ふ事ではない。が子さもには影響する。

さういふさ、即ち自分のありやうは、先生自身は氣がつかぬ。それ程自己が環境にひたつてゐる。此頃子供はさうしてあゝなつたであらう。……さ考へるが、あゝ、あの先生の性質がさ氣つくのである。そこでお互に、自分ではわからぬ事だからこそ注意しあはなければならぬ。あまり自分の特有なたちを持ちすぎてゐる人には、「もう少しさうしたら」さ教へてあげるがよい。

この間も實習科生に話したのは、人間の聲には樂器の様に高低があるので、子供の前に出る時は少し考へるべきである。歌うたひが人の前に出る時氣をつける様に、話す人が話す時聲を氣をつけるさいふ事も當然の事なのである。聲の高低も人により種々ある。そんな聲の音色だつて躰の中に關係をもつて來るのである。これがまあ躰についての一つである。しかし、これは深い話でなく自分さへ氣をつ

ければそれでよいのである。

それから少し深い話になるささういふ表面だけにささるのさでなく、もう少し深い所で、非常に關係するのがある。躰は先づ行動であるが、そればかりではない。さつちの手で頭をかくかも躰であり、花をみれば私は綺麗さおもひ、これはいくらするのかさ考へるのもささう躰られたからである。躰は行動の外に内面の躰さいふものもある。

前の話はその人のさだが、保姆の人生觀、自然觀さいふものもより深く影響するものである。即ちその人が人生を幸福に感じてゐるか、不満に感じてゐるかさいふ事が影響するものである。そこでわれわれは、自分は一體世の中さか人生についてさういふ氣を持たうさするさ、持つてゐるか、さいふのを常に自ら注意する必要がある。その子供が、樂天主義になるか壓世主義になるかさ、それ程影響はしないが、しかし影響はするのである。人生について不満を持つてゐる人は、いくら生活訓練の案をたてても駄目である。さういふさは、修養さして論ずるさやかましくなるが、躰さしては日常の事ださおもふ。その人に人生的にさの位の深みがあるかさいふ事はさても影響するものである。先生の性質、もつさ深くは、先生の人生觀、それは何々をさう躰けるかささいふの外に、實は大きな躰をしてゐるものである。氣をつけたいものです。